



平成30年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年4月25日

上場会社名 株式会社篠崎屋
 コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成30年5月2日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第2四半期の業績(平成29年10月1日～平成30年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	2,084	4.3	30	58.0	31	57.2	17	67.9
29年9月期第2四半期	2,177	5.1	71	615.8	72	593.8	54	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	1.24	
29年9月期第2四半期	3.86	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年9月期第2四半期	1,813	1,208	66.7	85.39
29年9月期	1,810	1,226	67.8	86.65

(参考)自己資本 30年9月期第2四半期 1,208百万円 29年9月期 1,226百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期		0.00		2.50	2.50
30年9月期		0.00			
30年9月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見直しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成30年9月期の業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期2Q	14,436,600 株	29年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	30年9月期2Q	278,800 株	29年9月期	278,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期2Q	14,157,800 株	29年9月期2Q	14,157,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の売上高は2,084,356千円（前年同四半期比4.3%減）、営業利益は30,006千円（前年同四半期比58.0%減）、経常利益は31,038千円（前年同四半期比57.2%減）、四半期純利益は17,579千円（前年同四半期比67.9%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当社は、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

商品につきましては、消費者にとって価値のある商品づくりを目指し、①豆腐、豆乳、おから等を使用した「茂蔵オリジナル商品」、②それ以外の厳選された「定番商品」、③協力工場等からの「本日のお買い得品」の3つに分類し、この中でも特に茂蔵でしか購入することのできない「茂蔵オリジナル商品」を開発・強化してまいります。

当第2四半期におきましては、「茂蔵オリジナル商品」を開発・販売することで顧客数の増加を図り、「本日のお買い得品」及びイベント企画商品による、中・高価格帯の商品を投入することで、顧客単価の上昇と商品売上総利益率の上昇に努めました。また、店舗におきましては、「三代目茂蔵」ブランドの認知度向上を推し進めることによる新規顧客の獲得と既存顧客のリピート率向上を図るため、3店舗の既存店舗においてリニューアル改装を行いました。

これらより、1商品あたり買上単価は前年同四半期比105.2%となったことが貢献し、1店舗平均の顧客単価は同103.2%となりました。しかしながら、「茂蔵オリジナル商品」の見直しや強化及び店舗のリニューアル改装による顧客数の増加には、時間がかかると考えており、1店舗平均の顧客数は前年同四半期比93.5%となりました。なお、出店につきましては既存業態を1店舗出店しました。

上記のことから、売上高の減少により売上総利益は前年同四半期比1.4%減少したものの、売上総利益率は30.6%と前年同四半期と同水準で推移いたしました。一方でパート従業員の時給上昇などにより人件費が前年同四半期比10.9%増となったこと等が要因となり、販管費率は前年同四半期と比較して2.1ポイント上昇し、営業利益率は前年同四半期の6.3%から2.0ポイント減少し4.2%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は1,776,631千円（前年同四半期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は75,312千円（前年同四半期比33.5%減）となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は307,724千円（前年同四半期比17.1%減）、セグメント利益（営業利益）は23,595千円（前年同四半期比14.3%増）となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	55	1	2	54
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	150	—	3	147
合計		205	1	5	201

（2）財政状態に関する説明

① 財政状態

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して2,940千円増加し1,813,377千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加23,384千円、有形固定資産の減少5,763千円等によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して20,755千円増加し604,381千円となりました。主な要因は、買掛金の増加40,854千円、未払費用の増加4,831千円及び未払法人税等の減少16,967千円等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して17,814千円減少し1,208,996千円となりました。これは四半期純利益17,579千円の計上と配当金35,394千円の支払により利益剰余金が17,814千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度と比較して23,384千円増加し607,749千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、65,926千円（前年同四半期は125,345千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益30,684千円、減価償却費及びその他の償却費16,417千円、仕入債務の増加額40,854千円、減少要因として未払金の減少額2,555千円、未払消費税等の減少額6,071千円及び法人税等の支払額28,191千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、7,674千円（前年同四半期は11,954千円の収入）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出7,889千円、敷金及び保証金の差入による支出1,753千円、リース債権の回収による収入3,132千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、34,865千円（前年同四半期は14,007千円の支出）となりました。これは配当金の支払額34,865千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	584,365	607,749
売掛金	124,567	122,616
商品	88,154	86,499
貯蔵品	1,169	1,516
その他	41,470	34,661
貸倒引当金	△50	△50
流動資産合計	839,677	852,994
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	109,210	102,873
構築物（純額）	8,310	7,710
工具、器具及び備品（純額）	20,116	17,865
土地	562,970	562,970
その他（純額）	4,356	7,780
有形固定資産合計	704,964	699,200
無形固定資産	15,096	13,178
投資その他の資産		
敷金及び保証金	179,256	179,426
その他	71,661	68,785
貸倒引当金	△219	△208
投資その他の資産合計	250,699	248,004
固定資産合計	970,760	960,383
資産合計	1,810,437	1,813,377
負債の部		
流動負債		
買掛金	366,375	407,230
未払金	126,953	121,522
未払費用	42,204	47,035
未払法人税等	36,745	19,777
債務保証損失引当金	3,050	—
その他	7,129	7,648
流動負債合計	582,459	603,214
固定負債	1,166	1,166
負債合計	583,625	604,381
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	147,109	129,294
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,226,660	1,208,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	150	150
評価・換算差額等	150	150
純資産合計	1,226,811	1,208,996
負債純資産合計	1,810,437	1,813,377

（2）四半期損益計算書
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成28年10月1日 至平成29年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成29年10月1日 至平成30年3月31日）
売上高	2,177,332	2,084,356
売上原価	1,542,894	1,473,214
売上総利益	634,437	611,141
販売費及び一般管理費	562,961	581,135
営業利益	71,475	30,006
営業外収益		
受取利息	112	108
未払配当金除斥益	456	441
受取保険金	300	—
その他	228	492
営業外収益合計	1,098	1,042
営業外費用		
その他	59	11
営業外費用合計	59	11
経常利益	72,514	31,038
特別利益		
債務保証損失引当金戻入額	1,500	1,525
特別利益合計	1,500	1,525
特別損失		
固定資産売却損	0	—
減損損失	—	1,451
固定資産除却損	95	55
店舗閉鎖損失	1,309	372
特別損失合計	1,404	1,878
税引前四半期純利益	72,609	30,684
法人税、住民税及び事業税	17,890	13,105
法人税等合計	17,890	13,105
四半期純利益	54,719	17,579

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成28年10月1日 至平成29年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成29年10月1日 至平成30年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	72,609	30,684
減価償却費及びその他の償却費	17,919	16,417
減損損失	—	1,451
貸倒引当金の増減額（△は減少）	—	△11
債務保証損失引当金の増減額（△は減少）	△3,000	△3,050
受取利息及び受取配当金	△112	△108
為替差損益（△は益）	△5	2
固定資産売却損益（△は益）	0	—
固定資産除却損	95	55
店舗閉鎖損失	1,309	372
売上債権の増減額（△は増加）	△17,805	1,969
たな卸資産の増減額（△は増加）	△19,893	1,308
仕入債務の増減額（△は減少）	63,283	40,854
未払金の増減額（△は減少）	4,309	△2,555
未払消費税等の増減額（△は減少）	19,221	△6,071
その他	7,464	12,689
小計	145,396	94,008
利息及び配当金の受取額	112	108
法人税等の支払額	△20,163	△28,191
営業活動によるキャッシュ・フロー	125,345	65,926
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△277	△7,889
無形固定資産の取得による支出	—	△945
敷金及び保証金の差入による支出	△1,535	△1,753
敷金及び保証金の回収による収入	10,058	983
リース債権の回収による収入	3,756	3,132
その他	△48	△1,201
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,954	△7,674
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△14,007	△34,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,007	△34,865
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	△2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	123,296	23,384
現金及び現金同等物の期首残高	328,838	584,365
現金及び現金同等物の四半期末残高	452,135	607,749

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,805,928	371,403	2,177,332	—	2,177,332
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,805,928	371,403	2,177,332	—	2,177,332
セグメント利益	113,190	20,639	133,829	△62,353	71,475

(注) 1. セグメント損益の調整額△62,353千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,776,631	307,724	2,084,356	—	2,084,356
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,776,631	307,724	2,084,356	—	2,084,356
セグメント利益	75,312	23,595	98,908	△68,901	30,006

(注) 1. セグメント損益の調整額△68,901千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、1,451千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。